



ペルーの経済情勢（2021年第1四半期）

2021/5/27

1 総論

最新のペルーの月例主要経済指標は、経済成長率▲4.18%（2月：前年同月比）、リマ首都圏のインフレ率2.60%（3月までの一年間）、対米ドル為替相場3.709ソル（3月平均値）、リマ首都圏の完全失業率15.3%（1月～3月）、財政収支2,324百万ソルの赤字（3月）、貿易収支749百万米ドルの黒字（2月）となった。

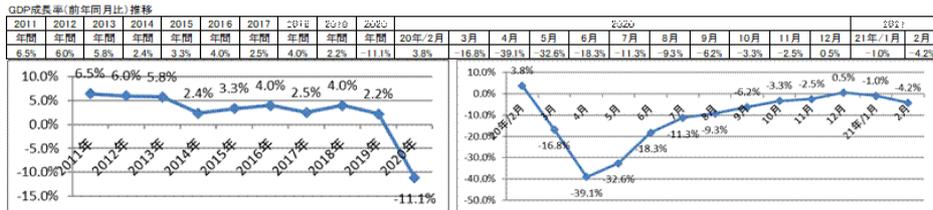
2 各論

(1) 主要経済指標

ペルー中央準備銀行及び国家統計情報庁によると、ペルーの主要経済指標は次のとおり。

ア 経済成長率

最新の経済成長率（GDP成長率）について、2月は金融・保険及び建設業の伸びが見られた一方、宿泊・飲食業及び運輸・倉庫・郵便等が大幅マイナスとなり、全体としてGDP成長率は▲4.18%（前年同月比）となった。

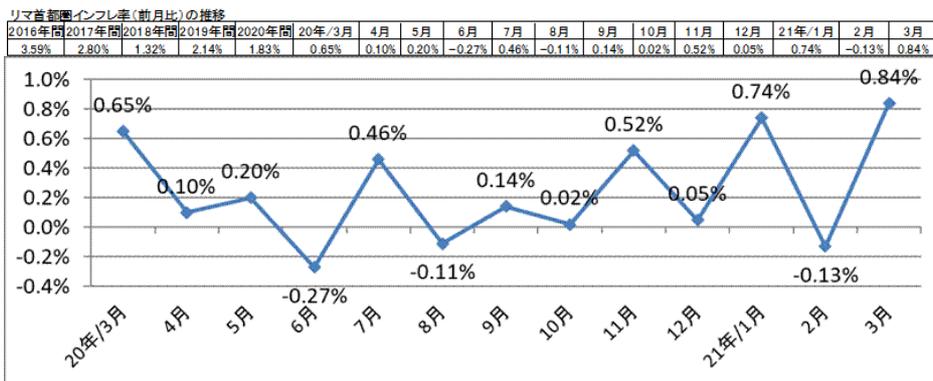


分野別GDP成長率(2021年2月、前年同月比)

農牧	0.70%	運輸・倉庫・郵便等	-25.07%
漁業	8.11%	宿泊・飲食業	-56.15%
鉱業・炭化水素	-5.34%	通信・情報	5.84%
製造	-1.27%	金融・保険	17.10%
電力・ガス・水	-4.60%	企業貸付	-12.02%
建設	14.32%	行政・国防等	4.85%
商業	-5.68%	その他	-7.26%

イ インフレ率

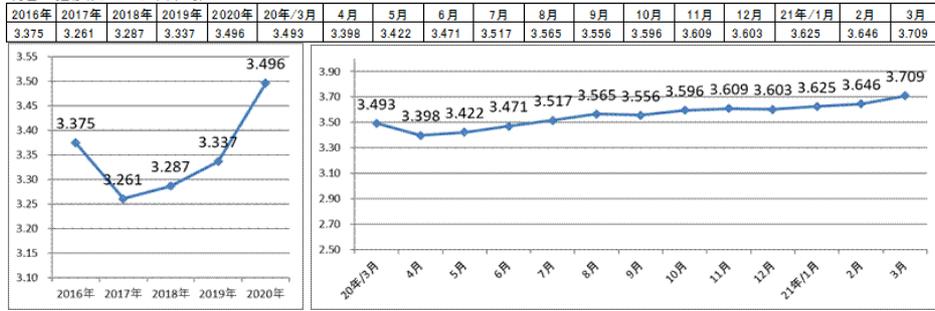
3月のリマ首都圏のインフレ率（消費者物価指数（前月比））は、0.84%となり、最近12か月（2020年4月～2021年3月）の上昇率は、2.60%となった。



ウ 為替相場

3月の対米ドル為替相場の平均は3.709ソルであった。

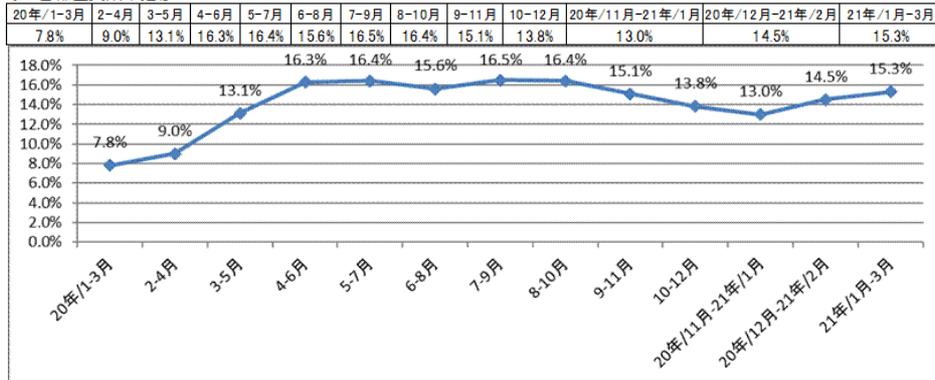
為替の推移(ソル/ドル)(平均)



工 失業率

1月～3月のリマ首都圏の完全失業率は15.3%であった。

リマ首都圏失業率推移



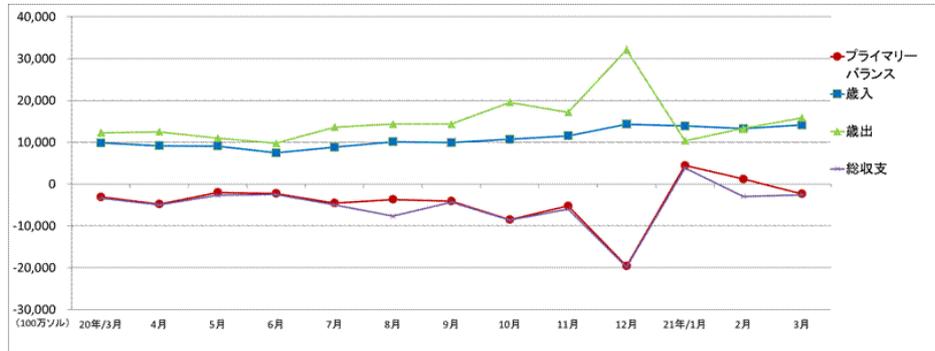
オ 財政収支

3月の政府全体の財政収支は、歳入が対前年同月比で43.4%増となった。歳出は対前年同月比で29.1%増となった。全体では、プライマリーバランスは2,324百万ソルの赤字となった。債務の利払いを含めると2,597百万ソルの赤字となった。

財政収支

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2020年/3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	21年/1月	2月	3月	前年同月比	対前年同月比
歳入	122,654	126,583	142,827	151,923	127,847	9,854	8,123	9,104	7,463	8,943	10,139	9,934	10,723	11,263	14,923	19,859	13,261	14,130	43.4	12.7
歳出	130,755	139,894	149,334	154,530	177,124	12,232	12,313	11,097	9,730	10,229	14,292	14,369	19,356	17,199	32,116	10,269	13,267	15,893	23.1	21.6
資本的収入	-118	682	-328	738	-2,682	-611	-1,432	-75	33	251	588	333	348	415	-1,789	942	1,301	-591	-	-
プライマリーバランス	-8,218	-12,629	-7,885	-1,869	-51,969	-9,649	-4,766	-1,679	-2,238	-4,534	-3,656	-4,038	-5,454	-6,212	19,519	4,451	1,208	-2,324	-	-
債務利払い	7,182	8,340	10,913	10,662	11,496	271	182	368	285	369	4,603	237	129	726	299	557	4,142	273	-0.3	19.0
総収支	-15,400	-20,989	-17,912	-12,531	-63,464	-3,312	-4,213	-2,279	-2,633	-4,933	-7,239	-4,275	-3,222	-5,844	-18,220	3,854	-2,057	-	-	-

※ 2020年1-3月と2021年同月累計差異。



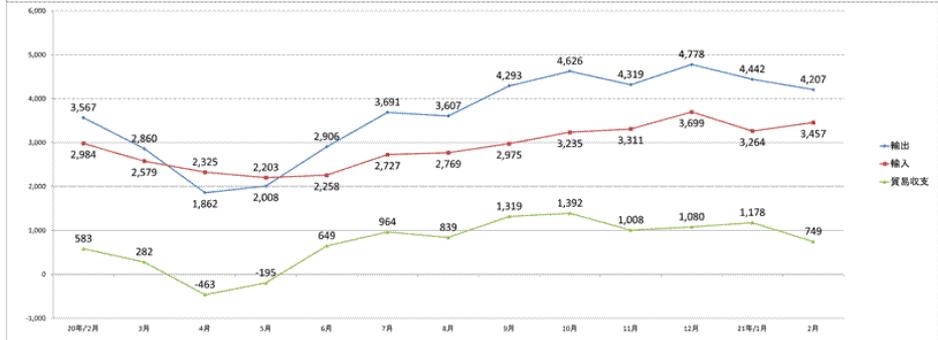
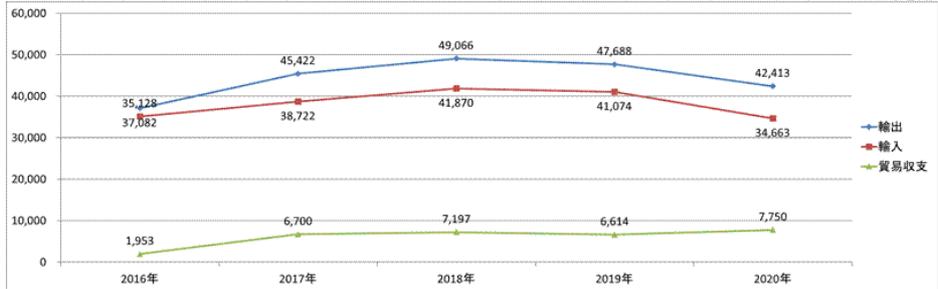
カ 貿易収支

2月の輸出額は、伝統産品（鉱物資源、魚粉、コーヒー等）が対前年同月比19.1%増、非伝統産品（アスパラガスなどの近代的農業産品、繊維製品、工業製品等）が15.2%増となり、全体では4,207百万米ドル（対前年同月比17.9%増）となった。主要輸出品目は銅、金、魚粉であった。

輸入額は、対前年同月比で消費財が3.9%増、中間財は18.4%増、資本財が22.8%増となり、全体で3,457百万米ドル（対前年同月比15.9%増）となった。この結果、貿易収支は749百万米ドルの黒字となった。主要輸入品目は原油、携帯電話、軽油であった。

貿易収支	2016年												2017年												2018年												2019年												2020年																																																																		
	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	1月																																																							
輸出	37,362	43,462	49,068	47,588	42,413	3,947	2,880	1,862	2,008	2,306	3,861	3,897	4,232	4,638	4,319	4,778	4,442	4,207	17,911	17,911	17,911	17,911	17,911	35,128	37,082	41,870	41,074	34,869	2,984	2,575	2,328	2,260	2,258	2,727	2,769	2,978	3,235	3,311	3,699	3,264	3,457	15,951	15,951	15,951	15,951	15,951	37,082	38,722	41,870	41,074	34,869	2,984	2,575	2,328	2,260	2,258	2,727	2,769	2,978	3,235	3,311	3,699	3,264	3,457	15,951	15,951	15,951	15,951	15,951	35,128	37,082	41,870	41,074	34,869	2,984	2,575	2,328	2,260	2,258	2,727	2,769	2,978	3,235	3,311	3,699	3,264	3,457	15,951	15,951	15,951	15,951	15,951	37,362	43,462	49,068	47,588	42,413	3,947	2,880	1,862	2,008	2,306	3,861	3,897	4,232	4,638	4,319	4,778	4,442	4,207	17,911	17,911	17,911	17,911	17,911

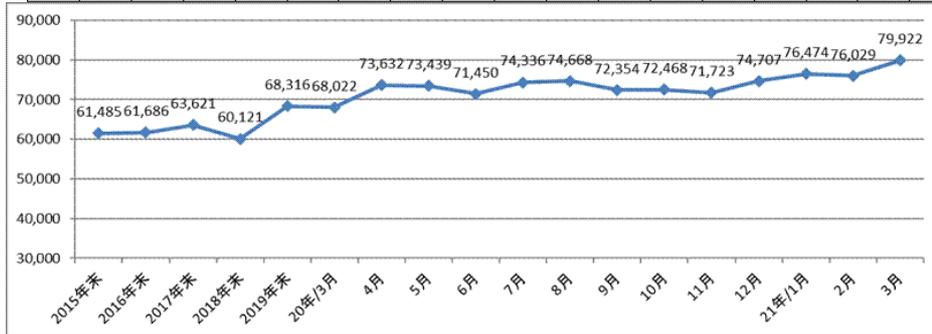
※2020年1-2月と2019年同期比差異



キ 外貨準備高

3月末の外貨準備高は79,922百万米ドルとなった。

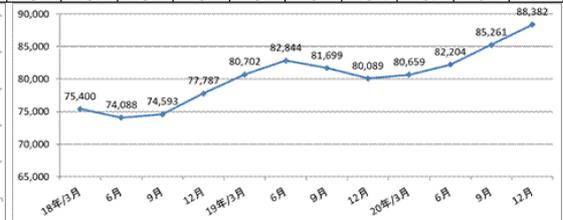
外貨準備高	2019年												2020年											
	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	3月		
2019年末	61,485	61,686	63,621	60,121	68,316	68,022	73,632	73,439	71,450	74,336	74,668	72,354	72,468	71,723	74,707	76,474	76,029	79,922						



ク 対外累積債務

2020年12月末の対外債務累積総額は88,382百万米ドルとなった。

対外債務累積	2019年												2020年											
	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	3月		
対外債務累積額	74,571	76,499	75,400	74,088	74,593	77,787	80,702	82,844	81,699	80,089	80,659	82,204	85,261	88,382										
中長期債務	66,865	68,019	65,571	65,384	66,492	68,430	72,366	74,543	73,244	72,232	71,643	73,422	76,279	78,929										
民間債務	37,248	35,067	33,883	33,921	33,972	33,518	34,028	34,000	34,952	32,952	32,572	31,333	31,354	30,289										
公的債務	29,617	32,953	31,688	31,463	32,520	34,912	38,338	40,543	38,292	39,280	39,071	42,089	44,925	48,640										
短期債務	7,706	8,480	9,829	8,704	8,101	9,356	8,336	8,301	8,455	7,857	9,016	8,782	8,981	9,453										



(注) 上記表中の数値は今後修正される可能性あり。

(2) 最近の主な出来事

・ 国家税務監督庁発表：2020年度税込 前年比▲17.4% (2021年1月12日GESTIÓN紙13面)

昨年度の税収は合計931億2,800万ソル。前年実績比で17.4% (176億3,400万ソル) の減収となり、世界金融危機が発生した2009年 (▲9.8%) を上回る下落幅となった。COVID-19パンデミックに伴う国内経済活動の停滞が影響した結果であったが、昨年下半年以降は経済活動再開の流れに乗り、12月単月税収は前年比▲3.1% (93億7,600万ソル) まで回復した。一般販売税(IGV)と所得税の前年比減収幅は

それぞれ81億1,300万ソルと58億4,900万ソルとなった。

・ **農業省発表：2020年農産品輸出4.4%増、果物輸出が15%増と伸長（2021年2月15日GESTIÓN紙15面）**

昨年の農産品輸出実績は77億9,100万ドルとなり、前年比4.4%の増加となった。伝統的産品が7億2,400万ドルと前年比▲6.5%であったのに対し、非伝統的産品は70億6,700万ドルとなり、前年比5.7%増であった。特に果物が39億ドルと15%伸長し、ぶどうが10億4,600万ドル（+19.5%）、ブルーベリーが10億300万ドル（+22.3%）に急増した。今年の農産品輸出は84億ドル（+7.8%）を想定しており、ブルーベリーがぶどうを超える見込みである。また、マンゴーは前年比40.8%増、アボカドは同比0.9%増、アスパラガスは同比3.7%減となる見通し。

・ **エネルギー鉱山省発表：2020年銅産出 チリとの格差拡大（2021年2月17日GESTIÓN紙13面）**

世界の銅産出量第2位（1位はチリ）のペルーはコロナ禍の直撃で、2020年の銅産出が約215万トンとなり、前年比12.5%の大幅減となった。チリは約570万トンで0.95%減に留まり、世界シェアも前年の28.1%から28.0%とほぼ変化がなかったのに対し、ペルーは11.9%から10.5%に減退した。将来の銅産出の新規プロジェクトはチリが200件であるのに対し、ペルーは64件と差をつけられ、新規探査投資も世界4位から6位に後退しているが、生産自体は昨年10月以降回復基調にある。

・ **FRASER世界鉱業投資魅力度ランキング2020でペルー34位に後退（2021年2月24日GESTIÓN紙12面）**

FRASER世界鉱業投資魅力度ランキング2020で、ペルーは世界77か国中34位となり、2019年の24位から10ランク後退した。2016年以降の推移は16年：28位（104か国）→17年：19位（91か国）→18年：14位（83か国）→19年：24位（76か国）→20年：34位（77か国）というように、2018年から毎年10位ずつ順位を落とし、ラマ域内でも前年の3位から4位に下落した。中でも鉱業潜在性指標の低下が顕著（前年比18ポイント下落）であり、その要因について全国鉱業石油エネルギー協会は探鉱投資の継続的減少が主因と説明している。実際、不明瞭な探鉱調査許可取得規準が足かせとなり、同投資は前年比35.5%減となった。

・ **ペルー自動車協会（AAP）発表：2月期トラック、オートバイ販売増、乗用車低調（2021年3月5日GESTIÓN紙6面）**

社会的隔離策の中、資材原料・商品運搬用の重量車両（トラック）の2月期販売実績は、車両買替えの時期と需要増で1,252台と前年同月比10.1%増加した。一方、軽量車両（セダン、SUV等）は購入動機の30%を占めるショールーム、ショッピングセンター展示販売が休業となったことで21.6%減となった。オートバイ（二輪、三輪）の販売実績は、宅配需要の増加により前年比26.3%増の2万8,401台と好調だった。

・ **Anglo American ケジャベコ（Quellaveco）、銅山開発工事最終段階へ（2021年3月11日GESTIÓN紙6面）**

アングロ・アメリカン（英国本社）が総額53億ドルを投資するケジャベコ銅山開発（モケグア州）は、3年半続いた工事が今年4月から最終段階（14億ドル投資）に入る。操業開始予定は2022年、年間銅産出は30万トンで、ペルーの銅産出に大きく寄与する。操業は労働者の安全確保を含めて100%デジタル化された初めてのケースとなる。すでに水資源確保の用水路建設工事は98%進捗済み。

・ **総選挙を控えて政局先行き不安 ドル為替相場史上最高を更新（2021年3月30日GESTIÓN紙1,2面）**

3月29日付為替相場は1ドル＝3.750ソルと米ドルが対ソル史上最高額を更新した。3月に入りソル切り下げ率は2.74%（3.65⇒3.75ソル）となった。中銀（BCRP）が直接ドル買い（1億1,100万ドル）とスワップ為替（12億1,900ソル）で市場に介入したが、ドル高ソル安を制御することはできなかった。有力大統領候補の3分の2がアンチ市場性傾向を示していることから、外国投資家筋の懸念が増幅し、ドル需要が増え続けている。また大統領選決選投票は必至の情勢のため、政局不安が長引くことも懸念されている。市場筋は今後3.75～3.80ソルの浮動を予測している。

(7)

[◀ 一覧へ戻る](#)

[▶ このページのトップへ戻る](#)

[法的事項 / アクセシビリティについて / プライバシーポリシー / このサイトについて / サイトマップ](#)

Copyright(C):2017 Embassy of Japan in Peru